



# ソディック (6143)

回復基調が持続、新たなパートナーを得て成長加速へ

2025 年 8 月 21 日

## 2025 年 12 月期 2Q 決算アップデート

- テクノロジーセクターからの旺盛な需要 – 2025 年 12 月期上期決算の最大のポイントは、AI やデータセンターで高密度光ファイバー接続に使用される MT コネクタ向けを中心にテクノロジーセクターからの需要が堅調だったことにより、足元の前年比での業績回復トレンドが下期も持続する見通しが強まったことだ。食品機械事業は国内外の需要を取り込み、高成長を維持した。想定外の賞与引当金積み増しにより人件費が前年同期比で増加したにもかかわらず、通期会社予想が据え置かれたことは、業績見通し改善に対する経営陣の自信の表れだろう。当社は 2025 年 7 月に発表されたアドバンテッジパートナーズとの事業提携について、成長加速への道を開くものと評価している。

## アドバンテッジパートナーズと新たな道を歩む

- 事業提携により成長を加速 – 2025 年 7 月、ソディックはプライベートエクイティ・ファンドのアドバンテッジパートナーズグループとの事業提携を発表した。これは 100 億円の資金調達(新株予約権 20 億円、転換社債 80 億円)を伴うもので、最大 19.6%の希薄化が生じる可能性がある。当社はこの提携がソディックの前向きな変化を加速し、成長ポテンシャルを大きく押し上げて、企業価値を向上すると予想している。
- 当社の業績予想を維持 – ソディックは 2025 年 12 月期通期予想を据え置き、当社も業績予想を維持した。
- バリュエーション – 据え置いた当社予想に基づく、2026 年 12 月期予想 PER は 14.6 倍、同配当利回りは 3.7%で、実績 PBR は 0.5 倍。資本は引き続き充実しており、D/E レシオは 0.4 倍である。業績回復の持続と実績向上により、株価再評価の下地は整ったと当社は考えている。

年度末	12/23	12/24	12/25E	12/26E	12/27E
売上高(10 億円)	67.17	73.67	76.29	81.25	86.55
営業利益(10 億円)	(2.82)	2.23	4.35	4.58	4.91
純利益(10 億円)	(4.60)	4.12	2.92	3.03	3.28
EPS(円)	(90.29)	81.06	57.54	59.77	64.62
1 株当たり配当(円)	29.00	29.00	30.00	31.00	32.00
売上高伸び率(%)	-16.5	+9.7	+3.6	+6.5	+6.5
営業利益成長率(%)	-148.5	N/A	+95.1	+5.3	+7.2
純利益成長率(%)	-176.5	N/A	-29.0	+3.9	+8.1
EPS 成長率(%)	N/A	N/A	-29.0	+3.9	+8.1
PER(倍)	N/A	10.4	14.6	14.0	13.0
EV/EBITDA(倍)	N/A	7.6	4.4	4.2	3.9
EV/売上高(倍)	0.5	0.5	0.5	0.4	0.4
PBR(倍)	0.6	0.5	0.5	0.5	0.5
ROE(%)	(5.8)	5.1	3.4	3.3	3.3
ROCE(%)	(2.7)	2.0	3.7	3.7	3.8
FCF 利回り(%)	(11.6)	14.9	14.4	10.2	11.3
配当利回り(%)	3.5	3.5	3.6	3.7	3.8
総還元利回り(%)	3.5	3.5	3.6	3.7	3.8

出所: 会社データ、アストリス・アドバイザリー(推定)

株価: 839 円 時価総額: 460 億円



出所: ブルームバーク

### リターン

	年初来	1M	3M	12M
絶対(%)	+14.0	-13.9	-4.1	+14.3
相対(%)	+3.0	-20.9	-15.0	-1.2

### セクター

工作機械  
機械

### 株式データ

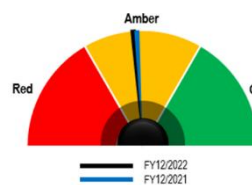
株価(円)	839
時価総額(10 億円)	46.0
時価総額(100 万ドル)	311.6
52 週レンジ(円)	664-1,043
発行済株式数(100 万株)	55
日次平均出来高(100 万ドル)	1.6
浮動株(%)	79.9
外国人株式保有比率(%)	17.1
コード	6143
取引所	Tokyo Prime
純有利子負債/自己資本(倍)	N/A
FFO レバレッジ(倍)	3.8
ブルームバーク 買い   ホールド   売り	1   1   0

出所: ブルームバーク

### 事業概要

ソディックは工作機械メーカーで、放電加工機のグローバルな市場リーダー。金属 3D プリンタ、射出成形機、食品加工機を開発・製造している。

### アストリス・サステナビリティ ESG レーティング



#### 参考格付け

MSCI	N/A
Sustainalytics	N/A
Refinitiv	N/A
S&P Global	32.0
Bloomberg	N/A

### イベント予定日

2025 年 11 月: 25 年 12 月期第 3 四半期決算

電話: +81 3 6868 8797

E メール: [Corporateresearch@astrisadvisory.com](mailto:Corporateresearch@astrisadvisory.com)

本レポートは同社から委託され、支払いを受けて作成されている。

## 直近の業績

### 2025 年 12 月期第 1~2 四半期決算

想定外の賞与引当金積み増しにもかかわらず、通期会社予想に向けて着実に進捗

#### 主要財務データ

(10 億円)	2024 年 12 月期 第 1~2 四半 期	2025 年 12 月期 第 1~2 四半 期	前年比 伸び率 (%)	2025 年 12 月期 会社予想	前年比伸び 率 (%)
売上高	33.59	37.98	+13.1	77.40	+5.1
売上総利益 (総損失)	10.63	13.34	+25.6		
<b>売上総利益率</b>	<b>31.6</b>	<b>35.1</b>			
営業利益 (損失)	(0.06)	2.15	N/A	4.30	+92.7
<b>営業利益率</b>	<b>-0.2</b>	<b>5.7</b>		<b>5.6</b>	
経常利益	1.50	1.54	+2.4	3.80	+4.8
親会社株主に帰属する 当期純利益	0.80	1.09	+36.0	2.90	-29.5
為替レート:					
米ドル/円	152.36	148.40	-2.6	150.00	-1.1
ユーロ/円	164.70	162.25	-1.5	165.00	+0.6
中国人民元/円	21.04	20.45	-2.8	21.00	-
タイバーツ/円	4.21	4.43	+5.2	4.50	+4.7

出所: 会社データ

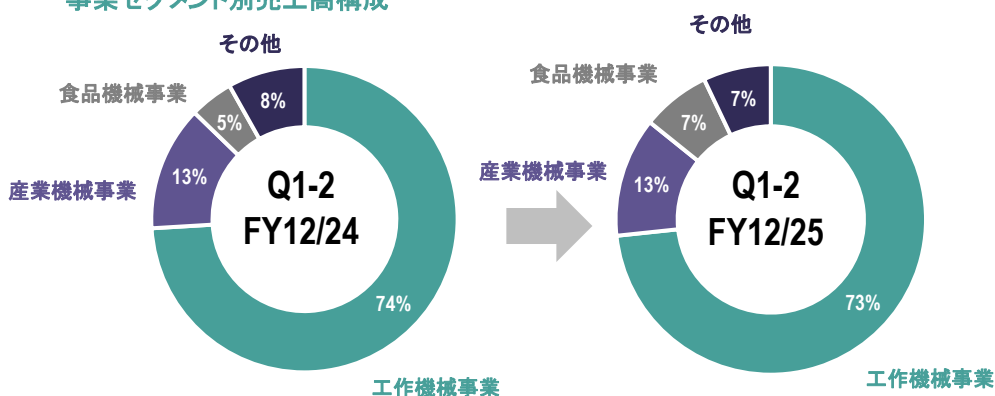
売上成長、構造改革の効果、高付加価値モデルへの販売シフトにより収益性が改善

#### 事業セグメント別データ(セグメント間取引消去前)

(10 億円)	2024 年 12 月期 第 1~2 四半期	2025 年 12 月期 第 1~2 四半期	前年比伸び率 (%)
売上高			
工作機械	24.90	27.85	+12.0
産業機械	4.43	4.73	+6.8
食品機械	1.55	2.72	+75.6
その他	2.74	2.68	-1.9
セグメント利益 (損失)			
工作機械	0.97	3.07	+318.1
産業機械	0.30	0.14	+47.8
食品機械	0.01	0.35	+5,057.1
その他	(0.09)	0.14	N/A
セグメント利益率 (%)			
工作機械	3.9	11.0	
産業機械	6.6	3.0	
食品機械	0.5	13.0	
その他	-3.3	5.1	

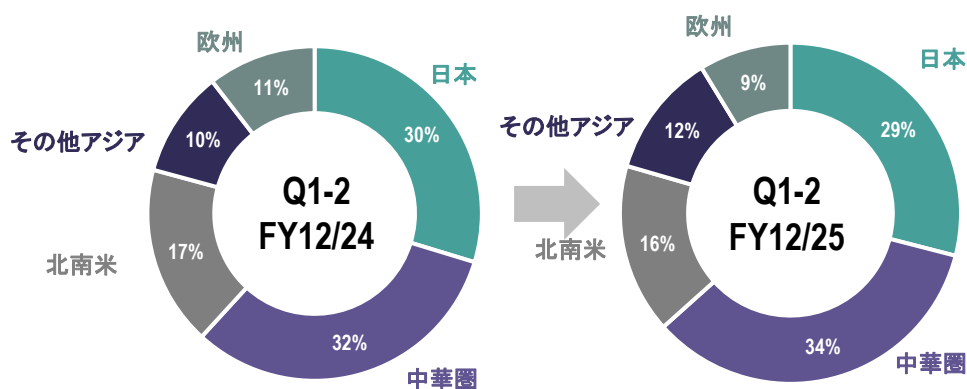
出所: 会社データ

### 食品機械事業の売上寄与が引き続き拡大 事業セグメント別売上高構成



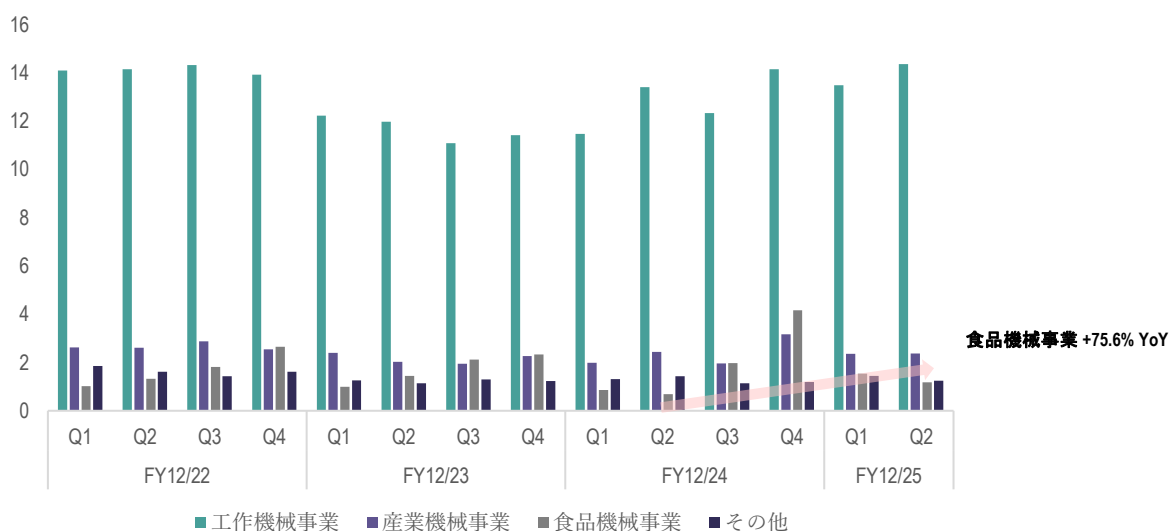
出所: 会社データ

### 中華圏の売上構成比は依然として高い 地域別売上高構成



出所: 会社データ

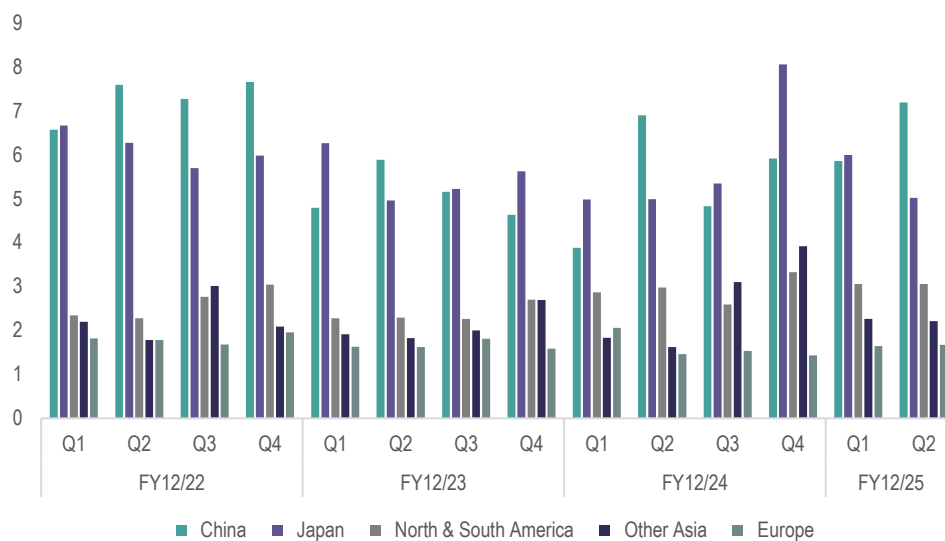
### 食品機械の売上成長は高水準を維持 事業セグメント別売上高の四半期別推移 (10 億円)



出所: 会社データ

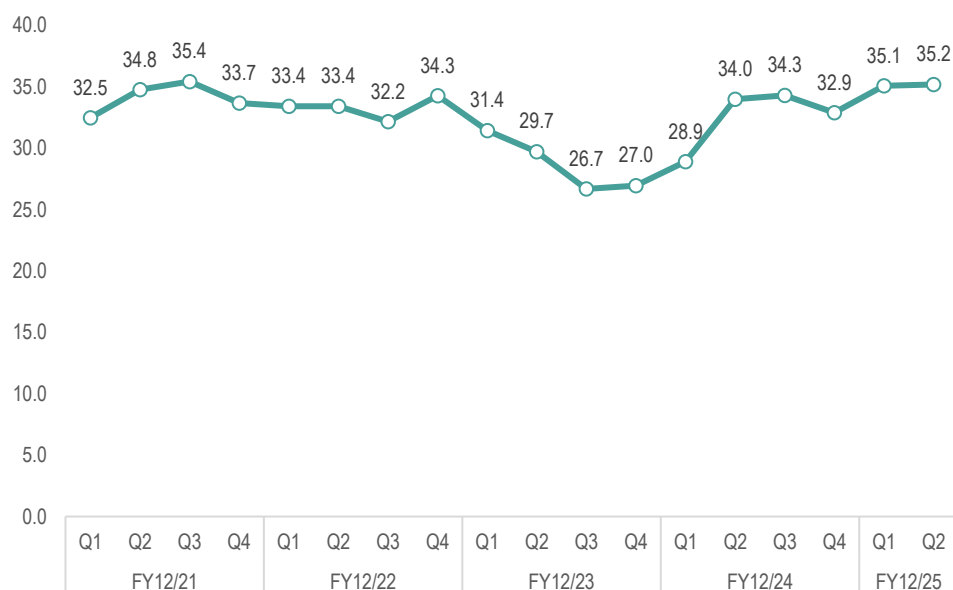


## 中華圏と北・南米の売上高は安定 地域別売上高の四半期別推移(10 億円)



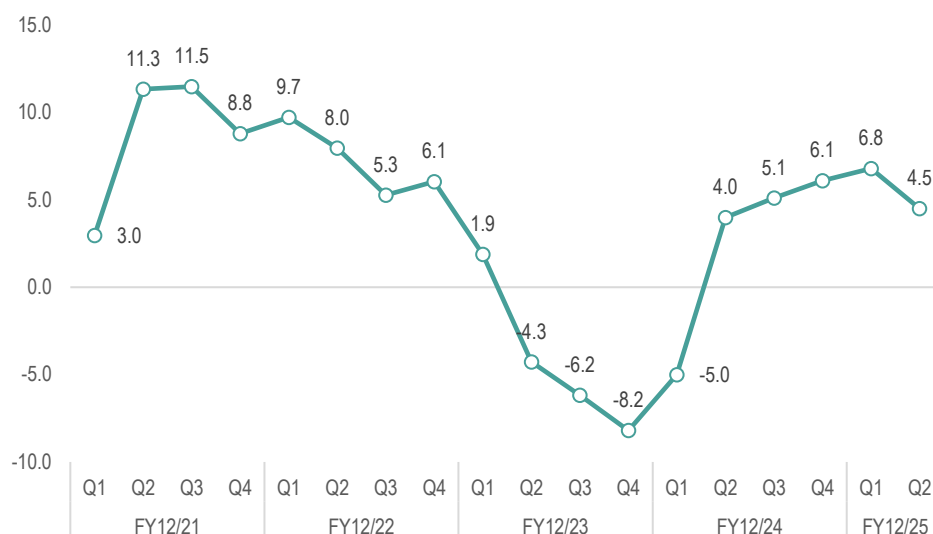
出所: 会社データ

## 売上総利益率は引き続き過去レンジの上限に 売上総利益率の四半期別推移(%)



出所: 会社データ

## 2025 年 12 月期第 2 四半期の営業利益率は賞与引当金積み増しにより低下 営業利益率の四半期別推移 (%)



出所: 会社データ

## 決算ハイライト

当社はソディックの 2025 年 12 月期上期決算から、同社が**安定した業績を常に達成できる、より強靱な企業に進化しつつある**と見て取った。前年同期比での 13.1%の増収と収益性改善の要因は、2024 年 12 月期に実施した構造改革の効果、AI とデータセンターを牽引役とするテクノロジーセクターからの旺盛な需要の持続、そして食品機械事業の高成長維持にあると当社は考えている。

第 2 四半期の営業利益率は第 1 四半期の 6.8%から 4.5%に低下したが、これは(1)通期会社予想で想定されていなかった賞与引当金の積み増し、(2)食品機械事業での低利益率案件の計上によるものである。全体としては業績見通しは堅調で、経営陣には賞与を引き上げる余裕があったと当社は解釈している。

主力の**工作機械事業**では、高密度光ファイバー接続で使用される MT コネクタ用金型の製造に用いられる高価格の特殊な超精密放電加工機の売上が好調で、地域別には中華圏、日本、米国が需要を牽引した。MT コネクタはさらに薄型化し、設計もより複雑化すると予想されるため、競争力のあるソディックの製品ラインアップは需要を維持するだろう。これに対し、自動車セクターからの需要は依然としてやや軟調だった。

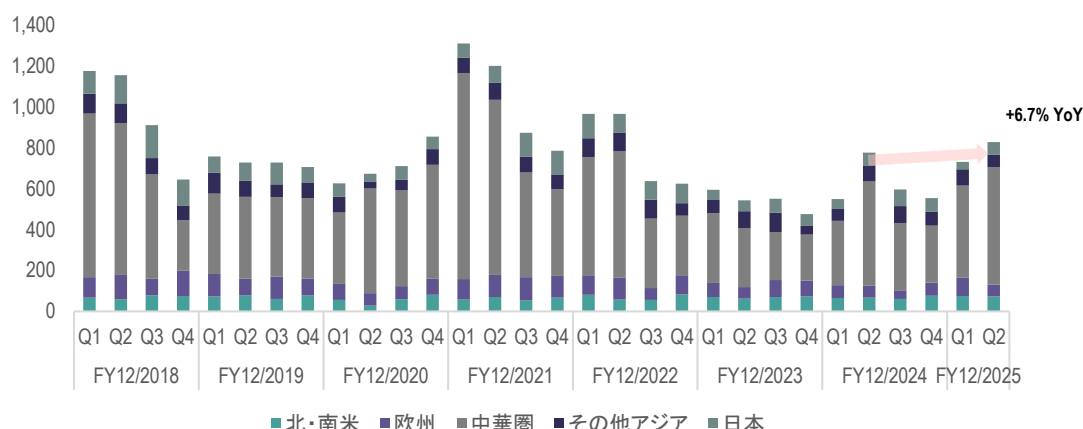
**食品機械事業**では、製麺設備や無菌包装米飯製造装置の需要が国内外で好調を維持した。第 2 四半期には収益性が低利益率案件の影響を受けたが、需要見通しは総じて良好で、総菜、パン、ごはんなどの真空冷却装置を開発し販売を開始している。ソディックは収益の年間を通じた平準化を目指しているが、食品機械セグメントの 2025 年 12 月期の利益貢献は下期偏重となるだろう。

**産業機械事業**は前年同期比 6.8%の着実な増収を達成したが、高付加価値モデルへの販売シフトにもかかわらず、人件費の増加や組織変更に伴う経費負担の見直しにより、営業利益は前年同期を下回った。

放電加工機の第 2 四半期の受注台数は、前年同期比 6.7% (前四半期比 13.4%) 増加した。地域別には、中華圏で前年同期比 12.7% 増加し、北・南米でも同 8.8% 増となった。一方、国内と欧州では前年同期比横ばいが続き、中華圏を除くアジアでは (2 四半期連続の大幅増の後ということもあり) 同 24.1% 減少した。この需要動向は、第 1～第 2 四半期のテクノロジー関連の MT コネクタ向けの需要動向や自動車セクターからの需要低迷と合致する。

## 2025 年 12 月期第 2 四半期の受注は比較的安定

### 放電加工機受注台数の四半期別推移



出所: 会社データ

**流動性** – 2025 年 12 月期第 2 四半期末の現預金残高は 405.4 億円で引き続き安定 (2024 年 12 月期末は 477.6 億円)。

**その他の重要な動き**として、2025 年 5 月にイタリアの金属 3D プリンタメーカー Prima Additive の持ち分比率を 9.5% から 94.35% に引き上げ、子会社化したことが挙げられる。この決定に至ったのは、金属 3D プリンタの長期的な成長見通しと子会社化による産業分野・販売地域拡大というメリットに、ソディック経営陣が確信を抱いているためだろう。同社が金属 3D プリンタの金型加工を主力としているのに対し、Prima Additive は部品加工が中心である。また、Prima Additive が積極的に事業展開している欧州、インド、中東、南アフリカは、ソディックがやや手薄な地域である。

## 2025 年 12 月期通期業績会社予想に変更なし

2025 年 12 月期通期業績会社予想に変更なし。売上高は全事業セグメントの好調により前年比 5.1% 増加し、営業利益率は 2024 年 12 月期の 3.0% から 5.6% に上昇すると予想されている。

- **工作機械** – 売上高は前年比 3.2% 増。全地域で放電加工機の需要が拡大し、金属 3D プリンタとレーザー加工機の販売、および保守サービス・消耗品の販売も増加する見込み。
- **産業機械** – 売上高は前年比 13.0% 増。日本国内のコネクタ、電子部品向け需要拡大により増収の見通し。

- **食品機械** - 売上高は前年比 2.7%増。海外市場で米飯装置などの需要が継続し、増収の見込み。

収益性の観点では、工作機械事業で営業レバレッジ効果が持続し、セグメント利益率が最も大幅に上昇すると予想されている。産業機械事業では展示会出展費用が増加する見込み。食品機械事業は小幅減益が予想されているが、収益源多様化の一環として、新たな収益の柱に成長しつつある。

## 収益性は前年比で改善する見込み

### 2025 年 12 月期業績会社予想と 2024 年 12 月期実績

(10 億円)	2024 年 12 月期 実績	2025 年 12 月期 会社予想	前年比伸び率 (%)
<b>売上高</b>	<b>73.67</b>	<b>77.40</b>	<b>+5.1</b>
工作機械	51.36	53.00	+3.2
産業機械	9.56	10.80	+13.0
食品機械	7.70	7.90	+2.7
その他	5.06	5.70	+12.7
売上総利益(総損失)	24.07	-	
売上総利益率	32.7	-	
営業利益(損失)	2.23	4.30	+92.7
営業利益率(%)	3.0	5.6	
工作機械	3.45	5.00	+45.0
産業機械	0.82	0.80	-2.8
食品機械	0.97	0.90	-7.2
その他	(0.32)	0.30	N/A
調整額	(2.69)	(2.70)	N/A
<b>セグメント利益率(%)</b>			
工作機械	6.7	9.4	
産業機械	8.6	7.4	
食品機械	12.7	11.4	
その他	-6.4	5.3	
経常利益	3.63	3.80	+4.8
親会社株主に帰属する当期純利益	4.12	2.90	-29.5
為替レート:			
米ドル/円	151.69	150.00	-1.1
ユーロ/円	164.05	165.00	+0.6
中国人民幣/円	21.01	21.00	-
タイバーツ/円	4.30	4.50	+4.7

出所: 会社データ

注: 2025 年 12 月期の親会社株主に帰属する当期純利益は、前年に蘇州工場の移転補償金(特別利益)約 17 億円の受け取りがあったため前年比で減少。

## アドバンテッジパートナーズとの事業提携

2025 年 7 月、ソディックはプライベートエクイティファンドのアドバンテッジパートナーズグループと事業提携し、約 100 億円の資金調達(新株予約権 20 億円と 5 年満期で転換・行使価格 1,117 円のゼロクーポン転換社債 80 億円の第三者割当、最大希薄化率 19.6%)を行うと発表した。



ソディックは事業投資の資金をデットファイナンスにより調達することもできたと当社は考えているが、この事業提携には次のようなメリットがある。

- **ステークホルダーの参画によりポジティブな変化を加速** – ソディックは、社内資源のみに依存するよりも、社外の経験や専門知識を活用することで成長見通しを加速できると判断した。この第三者割当により、アドバンテッジパートナーズは大株主としてソディックの経営陣と利害を共にし、企業価値向上という目標達成を目指すことになる。
- **販売力の強化** – 販売機能の改善は成長を大きく押し上げるとソディックは考えている。この点で、アドバンテッジパートナーズは他社での経験を提供できる。
- **ネットワークの活用** – ソディックは M&A や新規事業開発におけるアドバンテッジパートナーズの強みを活用できる。

調達した資金の使途については、中長期視点で配分すると当社はみている。

アドバンテッジパートナーズの関与形態は「セミ・ハンズオン」と見なされるもので、経営陣の派遣はない。





## 当社の業績予想

当社はソディックの 2025 年 12 月期以降の業績予想を据え置いた。

2026 年 12 月期と 2027 年 12 月期の当社予想は同社の中期経営計画に比べて保守的だが、これは、過去の利益率変動が大きかったことから横ばいに近い営業利益率を想定しているためである。

### 2025 年 12 月期会社予想と当社予想

年度末	25/12 期 会社予想	25/12 期 当社予想	26/12 期 当社予想	27/12 期 当社予想
<b>売上高 (10 億円)</b>				
工作機械	53.00	52.90	56.60	60.56
前年比伸び率 (%)	+3.2	+3.0	+7.0	+7.0
産業機械	10.80	10.04	10.54	11.07
前年比伸び率 (%)	+13.0	+5.0	+5.0	+5.0
食品機械	7.90	8.20	8.85	9.56
前年比伸び率 (%)	+2.7	+7.0	+8.0	+8.0
その他	5.70	5.16	5.26	5.37
前年比伸び率 (%)	+12.7	+2.0	+2.0	+2.0
<b>総売上高 (10 億円)</b>	<b>77.40</b>	<b>76.29</b>	<b>81.25</b>	<b>86.55</b>
前年比伸び率 (%)	+5.1	+4.2	+6.5	+6.5
<b>営業利益 (10 億円)</b>	<b>4.30</b>	<b>4.35</b>	<b>4.58</b>	<b>4.91</b>
営業利益率 (%)	5.6	5.7	5.6	5.7
前年比伸び率	+92.7	+95.1	+5.3	+7.2
<b>EBITDA (10 億円)</b>	<b>-</b>	<b>8.09</b>	<b>8.56</b>	<b>9.15</b>
EBITDA 利益率 (%)	-	10.6	10.5	10.6
<b>経常利益 (10 億円)</b>	<b>3.80</b>	<b>3.74</b>	<b>3.88</b>	<b>4.25</b>
前年比伸び率 (%)	+4.8	+3.0	+3.9	+9.5
<b>当期純利益 (10 億円)</b>	<b>2.90</b>	<b>2.92</b>	<b>3.03</b>	<b>3.28</b>
前年比伸び率 (%)	-29.5	-29.0	+3.9	+9.5
<b>FCF (10 億円)</b>	<b>-</b>	<b>6.61</b>	<b>4.71</b>	<b>5.18</b>
FCF 利益率 (%)	-	8.7	5.8	6.0
FCF コンバージョン(%)	-	177.0	121.3	121.9
<b>FCF 利回り (%)</b>	<b>-</b>	<b>14.4</b>	<b>10.2</b>	<b>11.3</b>
為替レート:				
米ドル/円	150.0			
前年同期比 (%)	-1.1			
ユーロ/円	165.0			
前年同期比 (%)	+0.6			
中国人民元/円	21.0			
前年同期比 (%)	-			
タイバーツ/円	4.5			
前年同期比 (%)	+4.7			

出所: 会社データ, アストリス・アドバイザー

注: FCF コンバージョンは FCF/税引前利益

### ソディックの中期経営計画と当社の業績予想

年度末	25/12 期 会社予想	25/12 期 当社予想	26/12 期 会社予想	26/12 期 当社予想	27/12 期 会社予想	27/12 期 当社予想
<b>売上高 (10 億円)</b>	<b>77.40</b>	<b>76.29</b>	<b>81.50</b>	<b>81.25</b>	<b>88.50</b>	<b>86.55</b>
<b>営業利益 (10 億円)</b>	<b>4.30</b>	<b>4.35</b>	<b>5.30</b>	<b>4.58</b>	<b>7.00</b>	<b>4.91</b>
営業利益率 (%)	5.6	5.7	6.5	5.6	7.9	5.7
<b>経常利益 (10 億円)</b>	<b>3.80</b>	<b>3.74</b>	<b>5.30</b>	<b>3.88</b>	<b>7.10</b>	<b>4.25</b>
<b>当期純利益 (10 億円)</b>	<b>2.90</b>	<b>2.92</b>	<b>4.00</b>	<b>3.03</b>	<b>5.40</b>	<b>3.28</b>

出所: 会社データ, アストリス・アドバイザー

## 株主還元

2026 年 12 月期の会社予想配当は前年比横ばいの一株当たり 29 円(中間配当 14 円、  
期末配当 15 円)、配当性向は 50.6%で、これに基づく配当利回りは 3.5%。



## 会社概要

### 概要

#### 放電加工機 (EDM)の市場 リーダー

1976 年に創業者の古川利彦氏が設立したソディックは、放電加工機の実験者であり、世界的なリーダーである。EDM は、自動車、スマートフォン、航空宇宙、医療などの分野における精密部品や小型化に対する需要を背景に、金型製造や部品加工に用いられる加工機である。放電加工は、機械による力ではなく電気による放電の熱エネルギーを使って加工対象物から材料を除去する加工方法である。フライス加工や回転などの機械加工では、鋭い内角や特に深い溝など、望ましい切削ができない場合や機械加工が困難な材料に、EDM がよく使用される。

精密マシニングセンタや金属 3D プリンタ、レーザー加工機とともに、射出成形機や食品加工機もソディックの主力製品である。

同社は 1986 年に東京証券取引所に上場した後、1980 年代前半に欧米へ進出し、1994 年には他社に先駆けて中華圏にも進出するなど、グローバルに事業を展開してきた。同社のグローバルネットワークは、主にアジア地域に集中し、日本、中国、タイに生産拠点を置いている。

#### 持続的な成長と 企業価値の向 上に注力

顧客の製造上の問題を解決するための創造力と技術力を持つソディックは、価格リーダーとして競争するのではなく、差別化された付加価値型ソリューションを提供してきた。しかし、経営陣は、持続的な成長を実現し、中長期的な企業価値を高めるためには、広範な事業変革が必要であると考え、古川健一現会長のもと、2020 年 10 月に「変革準備室」を設置した。長期的な成長戦略を実現するためには、従来の「機能別」組織から「事業別」組織へと転換する必要があった。

#### 事業別組織へ の変更

この変革により、機能最適な管理体制から事業全体最適を実現する、製造、販売、サービスの一貫通貫の事業管理体制を構築した。競争に勝つため、「機械の単体販売」から、お客様中心のソリューションとサービス事業の進化に注力することにシフトした。この 2 年間は、なかなか成果がでてこなかったが、2022 年 1 月についに機能し始めた。

#### カスタマーサク セスを目指す

経営陣は変革に意欲的に取り組んでいる。3 つの変革への取り組み、ガバナンス、働き方改革が進行中である。

#### 前向きな変化に 意欲的に取り組 む経営陣

- 価値創造へのシフト - 顧客データを収集し、「市場志向」の製品開発を推進するためのデジタルトランスフォーメーション(DX)の採用。
- 部門横断的な方針 - 複数の事業部門にわたる重要な問題を統合し、緊密な連携と業務の最適化を実現。
- 事業評価 - ハードウェアの売上台数やサービス契約数に基づく従来の評価指標から、企業の成長に合わせた、財務分析に基づく KPI を設定。
- ガバナンス - 取締役会の経営執行業務と監督業務を明確に分離。
- 働き方改革 - 2022 年に「ソディック健康経営宣言」を制定し、社員の心身の健康を最優先事項とし、前向きな職場環境を整備。



## 社史の概要

年月	詳細
1976 年 8 月	創業者の古川利彦氏が同社を設立
1986 年 2 月	東京証券取引所第二部に上場
1988 年 11 月	タイに初の海外生産拠点を設立
2007 年 3 月	食品機械事業に多角化
2015 年 3 月	東京証券取引所第一部に上場
2018 年 3 月	古川健一氏の代表取締役社長就任
2020 年 10 月	「変革準備室」の設置
2022 年 1 月	企業変革に伴い、工作機械事業本部新設
2022 年 4 月	東京証券取引所のプライム区分に移管
2025 年 8 月	アドバンテッジパートナーズとの事業提携及び資金調達

出所: 会社データ



JGAAP に基づく要約財務諸表

損益計算書 (10 億円)	期 12/23	期 12/24	期 12/25E	期 12/26E	期 12/27E
売上高	67.17	73.67	76.29	81.25	86.55
売上原価	47.89	49.60	51.26	54.44	57.99
売上総利益	19.28	24.07	25.02	26.81	28.56
売上総利益率(%)	28.7	32.7	32.8	33.0	33.0
営業利益	(2.82)	2.23	4.35	4.58	4.91
営業利益率(%)	(4.2)	3.0	5.7	5.6	5.7
営業外収益	2.01	2.18	-	-	-
営業外費用	(0.45)	(0.78)	(0.61)	(0.70)	(0.66)
経常利益	(1.26)	3.63	3.74	3.88	4.25
税引前当期純利益	(2.43)	5.02	3.74	3.88	4.25
法人税等	(2.18)	(0.92)	(0.82)	(0.85)	(0.98)
実効税率(%)	(173)	25.2	22.0	22.0	23.0
当期純利益	(4.61)	4.11	2.91	3.03	3.27
非支配株主に帰属する 四半期純利益	(0.01)	(0.01)	(0.01)	(0.01)	(0.01)
親会社株主に帰属する 四半期純利益	(4.60)	4.12	2.92	3.03	3.28

売上高前年比伸び率 (%)	-16.5	+9.7	+3.6	+6.5	+6.5
営業利益前年比伸び率 (%)	-148.5	N/A	+95.1	+5.3	+7.2
経常利益前年比伸び率 (%)	-115.2	N/A	+3.0	+3.9	+9.5
税引前当期純利益前年 比伸び率(%)	-130.1	N/A	-25.6	+3.9	+9.5
当期純利益前年比伸び 率(%)	-176.5	N/A	-29.0	+3.9	+8.1

貸借対照表 (10 億円)	期 12/23	期 12/24	期 12/25E	期 12/26E	期 12/27E
現金及び預金	34.62	47.76	57.09	64.56	73.56
有価証券	-	-	-	-	-
売掛金	16.00	19.19	17.27	17.27	17.27
棚卸資産	32.40	31.62	32.05	32.05	32.05
その他	3.15	2.95	3.27	3.27	3.27
流動資産	86.17	101.52	109.68	117.15	126.14
有形固定資産合計	32.94	32.24	32.44	32.65	32.87
のれん	0.80	0.71	0.71	0.71	0.71
無形固定資産	1.86	1.51	1.37	1.22	1.07
投資有価証券	5.48	6.66	6.66	6.66	6.66
その他	6.82	2.36	2.36	2.36	2.36
固定資産合計	47.90	43.47	43.53	43.60	43.67
資産合計	134.07	144.99	153.21	160.74	169.81
短期借入金	12.35	13.03	13.03	13.03	13.03
買掛金	9.15	11.61	11.80	12.53	13.34
その他	9.31	9.80	11.65	12.37	13.18
流動負債合計	30.81	34.44	36.48	37.92	39.55
長期借入金	24.13	24.12	24.94	25.77	26.59
その他	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00
固定負債	26.13	26.13	26.95	27.77	28.59
株主資本合計	77.08	84.38	89.73	95.00	101.62
非支配株主持分	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05
純資産合計	77.13	84.43	89.78	95.05	101.67
負債純資産合計	134.07	144.99	153.21	160.74	169.81

出所: 会社データ、アストリス・アドバイザリー (推定)

キャッシュフロー計算書 (10 億円)	期 12/23	期 12/24	期 12/25E	期 12/26E	期 12/27E
税引前当期純利益	(2.43)	5.02	3.74	3.88	4.25
減価償却費	3.94	3.71	3.74	3.98	4.24
その他の非現金項目	0.94	2.78	3.22	1.44	1.63
運転資金の増減	(0.53)	(0.48)	(0.50)	(0.49)	(0.50)
法人税等支払額	(1.93)	(1.07)	(0.82)	(0.85)	(0.98)
営業活動によるキャッシュフロー	(0.01)	9.97	9.36	7.96	8.65
設備投資	(5.33)	(3.13)	(3.05)	(3.25)	(3.46)
投資有価証券	(0.47)	(0.23)	(0.23)	(0.23)	(0.23)
その他の投資活動によるキャッ シュフロー	3.04	1.72	2.38	2.05	2.22
投資活動によるキャッシュフロー	(2.76)	(1.63)	(0.90)	(1.43)	(1.48)
配当金支払額	(1.44)	(1.47)	(1.47)	(1.52)	(1.57)
社債発行による収入 (償還によ る支出)	4.07	0.82	0.82	0.82	0.82
株式発行による収入	(1.20)	(0.18)	-	-	1.00
その他	(0.00)	(0.21)	(0.21)	(0.21)	(0.21)
財務活動によるキャッシュフロー	1.42	(1.04)	(0.86)	(0.92)	0.03
為替影響	1.50	1.97	1.73	1.85	1.79
ネットキャッシュフロー	0.14	9.25	9.33	7.47	9.00

フリーキャッシュフロー (FCF)	(5.34)	6.84	6.31	4.71	5.18
EBITDA	(0.09)	4.73	8.09	8.56	9.15

EBITDA 利益率(%)	-0.1	6.4	10.6	10.5	10.6
FCF マージン(%)	-7.9	9.3	8.3	5.8	6.0
FCF コンバージョン(%)	N/A	136.2	168.9	121.3	121.9
設備投資/売上高(%)	7.9	4.2	4.0	4.0	4.0
設備投資/減価償却(%)	135.0	84.3	81.6	81.6	81.6
営業 CF マージン(%)	-0.0	13.5	12.3	9.8	10.0

主要指標	期 12/23	期 12/24	期 12/25E	期 12/26E	期 12/27E
<b>収益性</b>					
売上総利益率(%)	28.7	32.7	32.8	33.0	33.0
営業利益率(%)	(4.2)	3.0	5.7	5.6	5.7
当期純利益率(%)	(6.9)	5.6	3.8	3.7	3.8
ROA(%)	(3.4)	2.9	2.0	1.9	2.0
ROE(%)	(5.8)	5.1	3.4	3.3	3.3
ROCE(%)	(2.7)	2.0	3.7	3.7	3.8
ROIC(%)	(6.8)	1.4	2.7	2.7	2.7
<b>流動性</b>					
流動比率(倍)	2.8	2.9	3.0	3.1	3.2
クイック比率(倍)	1.7	2.0	2.1	2.2	2.4
<b>負債比率</b>					
D/E レシオ(倍)	0.5	0.4	0.4	0.4	0.4
ネット D/E レシオ(倍)	0.0	net	net	net	net
		cash	cash	cash	cash
自己資本比率(倍)	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6
インタレスト・カバレッジ・レ シオ(倍)	-6.8	5.4	11.5	5.9	4.1
ネットデット/EBITDA (倍)	-21.8	N/A	N/A	N/A	N/A
<b>バリュエーション</b>					
EPS(公表値)(円)	(90.29)	81.06	57.54	59.77	64.62
PER(倍)	N/A	10.4	14.6	14.0	13.0
希薄化後 PER(倍)	N/A	12.4	17.4	16.8	15.5
DPS (円)	29.0	29.0	30.0	31.0	32.0
配当性向(%)	(32.1)	35.8	52.1	51.9	49.5
配当利回り(%)	3.5	3.5	3.6	3.7	3.8
株主総利回り(%)	3.5	3.5	3.6	3.7	3.8
FCF 利回り(%)	(11.6)	14.9	14.4	10.2	11.3
希薄化後 FCF 利回り(%)	(9.7)	12.4	12.0	8.6	9.4
PBR(倍)	0.6	0.5	0.5	0.5	0.5
EV/売上高倍率(倍)	0.5	0.5	0.5	0.4	0.4
EV/EBITDA 倍率(倍)	(420.2)	7.6	4.4	4.2	3.9
EV/EBIT 倍率(倍)	(12.7)	16.0	8.2	7.8	7.3
EV/FCF 倍率(倍)	N/A	5.2	5.4	7.6	6.9



**\*同社の業績予測モデルは、当社のコーポレートリサーチポータルからダウンロードできます**

## 免責事項

本レポートは、アストリス・アドバイザリー・ジャパン株式会社が作成したものです。本レポートは、アストリス・アドバイザリー・ジャパン株式会社が信頼できると考える公開情報源から入手した情報に基づいていますが、独自検証は行っていない、その正確性や完全性について保証、表明、保証をするものではありません。本レポートは、当該企業について述言及すべき全事項を記載したものではなく、また、記載を試みるものでもありません。ここに記載された意見は、本レポート作成時点におけるアストリス・アドバイザリー・ジャパン株式会社の判断を反映したものであり、予告なく変更される場合があります。本レポートに記載されている将来の見通しに関する情報または記述には、仮定、今後の業績予測、未確定な金額見積もりなどに基づく情報が含まれているため、既知および未知のリスク、不確実性および、このテーマに関する実際の結果、業績または成果が現在の予想とは大きく異なる可能性をもたらすその他要因が含まれています。

本レポートは概説として作成されたものであり、特定の金融商品または戦略を個人的に推奨するものではなく、また個人的な投資アドバイスを構成するものでもありません。

アナリストは、(i) 本レポートで表明する見解は、本レポートの対象である企業および証券に関する当該リサーチアナリストの個人的見解を正確に反映していること、(ii) 当該リサーチアナリストの報酬のいかなる部分も、直接的にも間接的にも当該リサーチアナリストが本レポートで述べた見解に過去、現在、未来を通して関連しないことをここに証明します。

本レポートは、日本法に基づき設立され、日本の金融庁の監督下にあるアストリス・アドバイザリー・ジャパン株式会社により作成されました。現地当局による規制範囲に関する詳細をご要望の場合は、弊社から入手可能です。

## 利益相反

本レポートは、当該企業が委託して費用を負担したものであり、MiFID II で定義される許容可能な軽微な非金銭的利益に該当すると判断されるものです。

読者は、アストリス・アドバイザリー・ジャパン株式会社が、現在、もしくは今後 3 ヶ月以内およびその後、当該企業に対して IR/コーポレート・アドバイザリーなどのサービスを提供する、または提供することを求める可能性があることを前提とする必要があります。

記載金融証券への投資: アストリス・アドバイザリー・ジャパン株式会社は、取締役、役員、従業員およびサービスプロバイダーの個人的な取引について制限的な方針をとっています。アストリス・アドバイザリー・ジャパン株式会社は、投資業務を行っておらず、本レポート記載の金融証券は一切保有していません。

## 責任制限

アストリス・アドバイザリー・ジャパン株式会社は、本レポートに基づき投資家が行った投資、売却、保有の決定に関して、いかなる責任も負わないものとします。アストリス・アドバイザリー・ジャパン株式会社は、本レポートの情報に起因する直接的、間接的、偶発的、特別、または結果的損害（予見可能か否かを問わず）に対して、一切の責任を負わないものとします。

Copyright 2025 Astris Advisory Japan K.K. All rights reserved.

全著作権所有無断転載禁

